

勉学の旗 (高須中学校だより)

平成28年6月28日号 高須中学校長 山口和久



部活動について思うこと

私は、教員になって最初の3年間、ただ若いというだけで自分がしたこともないサッカー一部の顧問になったことがあり、そのことがとてもよい経験になりました。(私は、中学校・高校とバレーボールをやっていたのですが、その当時は、その中学校にある部活動が、専門の顧問の先生に指導してもらえることなどほとんどなく、若い先生は自分がしたことのない部活動を受け持つことが多々ありました。)

その後、ずっと専門のバレーボール部の顧問をするようになり、ライバルチームの中学生の一人に、当時北九州市中学校男子バレー界のスーパースターであった山田崇史君(現高須中学校3年1組担任)とも出会うようになるのです。

山田先生と最初に出会った頃、私は小さな中学校に勤務しており、社会科の教員は私一人だけで3学年6クラスのすべての授業を受け持っていました。しかも、男子も女子も顧問をしていましたので、いくら自分が若いと言っても、もうヘロヘロです。そんな時に、本物の専門のバレーの指導者(全日本女子チームの元監督)から指導をしていただく機会を得て、その方から「先生は、自分は専門の指導者と思っているかもしれないけれど、中学校の教員



〔練習中の本校バスケット部〕

は教科を教えることが専門であり、そのスポーツの専門の指導者などいない。だから気負わずに、『もう少し練習したい』と生徒に思わせるくらいがちょうどいいし、その方が理にかなっている。」と指摘されたのです。また、その当時はちょうど学校週5日制が始まった頃で、「土曜日は部活動をせずに、子どもを家庭や地域にかえそう!」という流れもあり、これ幸いと私は、土日のどちらか部活動は休み、当たり前ですけど考査前1週間は部活動完全中止、年末・年始とお盆はそれぞれ1週間休み、ゴールデンウィークも後半の3日間は休み、にしました。その後、平日の体育館の使えない日が1日、そして土日もできるだけどちらかを休みにしていきますが、その当時これはかなり勇気の要ることでした。でもそれだけ休んでも、かえってチームが力をつけていることは実感できましたし、正直結果もついてきました。そして何より、学級の中や生徒会でも部員は活躍するようになりました。

これは、私が勝手に思っているだけのこともかもしれませんが、部員たちは「限られた時間で物事を行うための自分なりに工夫する力」と、その「限られた時間、常に安定して集中する力」を身につけたのだと思います。

どんなに力(技術)をもっているとしても、試合中に味方の失敗や審判の判定にイライラして、自分たちの力を発揮できなければ、よいゲームはできません。他人のミスや判定をコントロールすることはできませんが、そ

<裏へ続く>

んな中でも常に自分のベストを尽くそうとすること、つまり自分のことはコントロールできます。日頃から自分の気持ちや行動をコントロールし、もっている力を安定して発揮できるような練習や日常を送っているかどうか、中学生の場合は試合の結果にも結構影響してきます。圧倒的に技術力に差があれば別ですが、練習試合では負けていても、この習慣を身につけていれば、本番の試合の結果は分かりません。また、それは当然、逆のパターンもあり得ます。

先生方が、部員の皆さんに「まず学校生活をきちんとしなさい。」とよく言うのは、「日頃から自分の気持ちや行動をコントロールし、ベストを尽くす練習をしなさい。」という意味が含まれています。そしてその習慣が身についた人は結果的に、部活動だけではなく勉強にもベストを尽くすことができるのです。

部活動の発足会で部員の皆さんには、「せっかく部活動をするのであれば、ベストを尽くす練習をしなさい。授業にベストを尽くしなさい。掃除にベストを尽くしなさい。給食にベストを尽くしなさい。」と、話しました。

また、部活動保護者会の全体会では保護者の皆様に、「本校では、部活動の活動時間を適度に短くすることが、結局は生徒のためになると考えています。」と、話をしました。これは、以上のような私の経験から出てきている言葉です。

いよいよ、夏の大会です。部員の皆さん、特に3年生の皆さんはベストを尽くしてください。期待しています。